

◆ 2021 年度 活動 報告 シ ー ト ◆

団体名：NPO 法人 いろいろ生きものネット埼玉

24A-17

代表者：代表理事 脇坂 純一

URL : <https://iinenet101.jimdofree.com/>

1. 活動が必要とされた状況

- ① 里山保全及び外来植物の調査・除去活動：狭山丘陵の保全活動は、継続的な取組が必要。外来植物市民調査も継続が重要。
- ② 生物多様性保全の普及啓発活動：住民の理解と活動を促すためには、効果的な広報などが求められる。

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

① 狭山丘陵の里山保全及び外来植物の除去活動

- ・ 里山保全活動は、年6回下草刈り、枯損木の伐採、シイタケのコマうちなどを実施した。また、カシノナガキクイムシ（カシナガ）の調査を行い、被害木(18本)を確認した(参加者3~8人)。
- ・ 自発的市民調査を2年続けて実施した。テーマは既存のデータが乏しい外来植物の開花時期調査(参加者のべ20人)。
- ・ 原市沼川の特定期外生物オオフサモの除去活動は、様子を継続的に



緑森カシナガのフラス

モニタリングした(参加者延べ10人)。

② 生物多様性保全の普及啓発活動

- ・ R3/5/29に「植物の害虫とは何か～カシノナガキクイムシをとおして考える～」をテーマに第3回サイエンスカフェをオンラインで開催した(参加者60人)。



カシナガ観察会の様子

- ・ R3/9/11に「カシノナガキクイムシ観察会」をトラスト協会の協力をいただき伊奈町で開催した。(参加者23人)
- ・ R3/11/20に「ムクドリのねぐら」をテーマに第2回サイエンスカフェを会場・オンラインの併用で開催。(参加者27人)
- ・ R4/2/27に「生物情報の収集・保全・活用」をテーマにリモート併用開催(参加者50人)
- ・ R3/8に生きもの通信第9号を発行した。



生きものフォーラム

3. 活動の成果

- ・ 緑の森博物館の当団体管理地(0.9ha)の里山整備ができた。
- ・ カシノナガキクイムシに関してサイエンスカフェと観察会を実施し、その生態を理解し周知を図ることができた。また、ムクドリの生態についても理解を深められた。
- ・ フォーラムでは、生物情報の活用などについて理解を深められた。

4. 今後に残された課題

- ・ クビアカツヤカミキリ、カシノナガキクイムシ対策のフォローアップ。
- ・ 里山保全活動は整備の方向性を再検証すること。また、参加者が里山保全活動の全体像を十分に理解、体験、伝播できるようになること。
- ・ 多角的な情報発信役をするための自らの活動の強化(会員拡大、対象の拡大、実践・研究・モニタリングの深化、活動分野の多角化など)を図っていくこと。当面は市民調査を継続的に実施してノウハウを蓄え、情報発信を行いつつ定着させること。